

財団ニュース

2002年度第2号（通巻第53号）

弔	辞	1
2002年度援助一覧表		5
事 務 報 告		8



YAMADA SCIENCE FOUNDATION NEWS

財団法人

山田科学振興財団



追悼 京極先生

京極好正先生のご逝去を悼む

理事 芝 哲 夫

ポストゲノム時代に入ったわが国で、蛋白質研究の強力な推進が叫ばれている時に、最も大切な人物を失うことになった。山田財団にとってもこの分野ではかけがえのない方を失うことになったことは何とも残念で、深い悲しみがこみ上げてくる。

蛋白質3000プロジェクトが文部科学省で始まり、財団に対しても蛋白構造関係の応募が増えてきつつあった状態を受けて、平成11年に評議員にご就任いただいて、熱心にご助言、ご審査を下さっていた京極好正先生がこのような忽然と世を去られるとは思ひもしなかった。誠に痛恨のきわみである。

京極先生は昭和33年に東京大学理学部化学科を卒業され、東大薬学部助教授を経て、昭和46年に大阪大学蛋白質研究所教授に就任された。以来、蛋白研にあってNMR分光法を駆使した方法で、蛋白質と核酸の溶液の構造とその分子認識機構の研究で、数々の世界に先駆けた業績を挙げられ、わが国の蛋白質の構造研究の推進に多大の貢献をされた。その業績に対して、昭和60年には大阪科学賞、平成8年には日本化学会賞、平成10年には紫綬褒章を受章されている。

平成9年には大阪大学蛋白質研究所所長を勤められた後、定年退官され、退官後お亡くなりになるまで、国の要請を受けて産業技術総合研究所生物情報解析センター長に就任され、わが国の構造ゲノム、構造生物学を進める中心人物としてそのご活躍が期待されていた矢先の悲報であった。

私も山田財団以外にも先生の蛋白研時代から親しくお付き合いを賜り、赤堀四郎先生の主唱されたアジア分子生物学研究機構（AMBO）の準備、発足から現在に至る20数年間その運営の裏方としての世話を共にさせて頂いた。また私の属する蛋白質研究奨励会の理事としても、何かと相談役を引き受けていただいていた。私の心に残る先生の面影は、常にきわめて誠実で、謙虚にしかも親身になって尽くしていただいた姿である。思い返すと、このように美しい心の人とこの世でお付き合いが出来たことは得がたい恩恵であったと、感謝と愛惜の念が尽きない。今は先生のご冥福を祈るのみである。



追悼 松本先生

松本元さんの脳科学

理事 伊藤 正 男

今年3月7日の松本元さんの逝去はあまりの唐突で、いまだに信じられない思いがする。2月の末に研究所に来られたとき、かなりやつれが目立ったが、変わらぬ元気なお話しぶりにひと安堵したばかりのことであった。

1997年に理研の脳科学総合研究センターが創立されたとき、松本元さんはグループディレクターの一人として、脳型チップ、脳型コンピュータ、人型ロボットの創造という当時としては破格の大胆なスローガンを掲げて参加された。それ以来、センターの強力な牽引力であり、熱烈な支持者であった。私も、5年間にわたって、そのエネルギーにあふれる魅力的なお人柄に接し、忘れられない多くの思い出がある。

物理学で育った松本元さんが脳科学への接近のため最初にとった戦略は、ニューロコンピュータのチップを作り、その集積度を途方もなく高めることで脳に近い働きを発現させようとするところだった。しかし、脳の問題はそのような次元の工夫では解決できないと思われたのであろう。脳のシステムとしての働き、特に情動、動機づけ、報酬系、刷り込みなど、動物の行動を担う脳のメカ

ニズムに研究の重点を移された。自分で自発的に動き、状況の有利不利を判断して行動をきめる、その働きを学習を通じて獲得して行くという、生物の脳の素晴らしい仕組みを機械に写し取るには、脳の生物学的な情報がまだまだ足りないと感じられて、仲間を集め、自ら生物実験にのめり込まれた。

脳科学総合研究センターは生物系の研究者も情報系の研究者も交じり合って、脳もコンピュータも一つに包みこむという学際的な行き方を基本にしているが、松本元さんはまさにそれを具現された。脳についての知識を機械に移すというよりは、脳のようなことができる機械を作る努力の中で脳の仕組みを考え、新たな洞察を導き出そうとされた。松本元さんの思考には直感性が強く、その筋道が理解されにくい面もあった。論理の飛躍が大きく、それを繋ぐのが容易でないこともあった。しかし、お話をしていて、その根底には松本元さんならではの深遠な思考の筋道が隠されていると何時も思うことであった。それをもっと聞かせて頂けなかったのが残念の極みである。

+++++ 2002年度 援助一覽表 +++++

研究援助（19件）

推薦学会	代表研究者 氏名・所属	研究主 題	援助金額 (万円)
応 用 物 理 学 会	東京工業大学大学院 大 岩 顕	Ⅲ-Ⅴ族磁性半導体におけるスピン注入 磁化反転の研究	280
応 用 物 理 学 会	物質・材料研究機構 ナノマテリアル研究所 追 田 和 彰	フォトリック結晶における非古典光の局在	170
日 本 物 理 学 会	名古屋大学大学院 伊 藤 正 行	核磁気共鳴法を用いた遷移金属酸化物の 軌道物性の研究	400
日 本 物 理 学 会	東京工業大学大学院 上 田 正 仁	ボース凝縮体の崩壊のダイナミックスの 研究	150
日 本 化 学 会	名古屋大学大学院 石 原 一 彰	環境調和型触媒的脱水縮合反応の開発	250
日 本 農 芸 化 学 会	北海道大学大学院 及 川 英 秋	中・大員環生物活性ジテルペンの酵素的 全合成研究	220
日 本 遺 伝 学 会	国立遺伝学研究所 高 野 敏 行	自然集団変異を利用した嗅覚・味覚受容 体遺伝子間の機能ネットワークの構築	170
日本植物生理学会	岡山大学 山 本 泰	光合成光化学系Ⅱの quality control	180
日 本 動 物 学 会	奈良女子大学 春 本 晃 江	繊毛虫における接合誘導機構の研究	220
日 本 動 物 学 会	九州大学大学院 山 脇 兆 史	捕食性昆虫における視覚情報処理と運動 制御	170

合 計 10件 2,210万円

	代表研究者 氏名・所属	研 究 主 題	援助金額 (万円)
推 薦 研 究	東邦大学 川 田 健 文	モデル生物を用いた転写因子STAT シグナルネットワークの解析	180
	奈良先端科学技術 大学院大学 児 嶋 長次郎	樹脂担体固定化技術を用いたNMR による膜タンパク質の立体構造解析法の開発	250
	大阪大学大学院 篠 原 厚	重アクチノイド元素の化学的性質に対する相対論効果の実験的検証	250
	大阪大学 仲 哲 治	サイトカインシグナル制御因子 (SOCS family) のTLRシグナル伝達阻害における分子機構の解明	180
	京都大学大学院 半 田 哲 郎	血漿アポリポ蛋白質の脂質粒子認識機構の解明	180
	愛媛大学 東 山 茂 樹	終末分化細胞－特に心筋および神経細胞の長期生存維持機構の解明	160
	東京薬科大学 別 府 正 敏	死にゆく細胞を認識除去する新たな分子機構に関する研究	160
	東京工業大学大学院 松 下 道 雄	単一分子分光による光合成アンテナ複合体の励起状態の研究	250
	芝浦工業大学 六 車 仁 志	エバネッセント領域を利用するナノ構造化法の創製	180

合 計 9件 1,790万円
総 計 19件 4,000万円

短期間派遣援助（５件）

被 派 遣 者	目 的	渡 航 先	実施年月
九州大学大学院 平 田 雅 人	第12回神経薬理学カンファレンス －GABA _A 受容体－	ア メ リ カ	2002/10
徳島大学 樋 田 一 徳	第32回北米神経科学会議	ア メ リ カ	2002/11
京都大学 内 藤 栄 一	第32回北米神経科学会議	ア メ リ カ	2002/11
姫路工業大学大学院 小 泉 裕 康	アメリカ物理学会2003年 3 月年会	ア メ リ カ	2003/ 3
浜松医科大学 中 村 和 彦	分裂病研究国際会議	ア メ リ カ	2003/ 3

注：2002年度後半（2002年10月～2003年 3 月）実施分

+++++ 事 務 報 告 +++++

事 業 日 誌

2002. 10. 28 財団ニュース通巻第52号完成・発送
10. 31 2003年度長期間派遣援助申込締切
11. 16 選考打合せ
11. 30 2003年度来日援助申込締切
12. 21 選考打合せ
12. 25 第25回事業報告書完成・発送
2003. 1. 25 選考打合せ
2. 22 第2回理事会・評議員会：2003年度研究援助選考計画、2002年度援助事業報告、
役員・評議員・選考委員の選任、理事長及び専務理事選任、2003年度事業計画、
予算及び事業活動予定の決定、援助案件承認、研究交歓会の決定、2003年度研究
援助推薦学会決定
3. 28 選考打合せ

+++++ 人 事 消 息 +++++

- 2003年 1 月 豊島久真男評議員が理化学研究所遺伝子多型研究センターセンター長に就任されま
した。
2 月 京極好正評議員が肺炎のためご逝去なされました。（2月27日）
3 月 松本 元選考委員が肝硬変及び突発性細菌性腹膜炎でご逝去なされました。
（3月9日）

財団法人 山田科学振興財団

〒544-8666 大阪市生野区巽西1丁目8番1号

電話 大阪 (06) 6757局 3311 (代表)

Yamada Science Foundation

8-1 Tatsumi Nishi 1-chome, Ikuno-ku

Osaka 544-8666, Japan